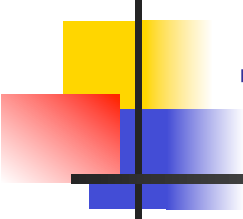


言語とジェンダー:

クリティカル・ディスコース(批判的談話)分析2

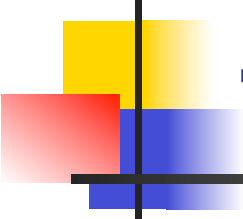
サンフランシスコ州立大学／国立国語研究所

南 雅彦



ディスカッション

1. 男性言葉、女性言葉など、特有な形があるか。それはどのような表現か。
2. 男女が区別されている職業名があるか。また、以前は存在したが、今は中性になっている言葉があるか。(fireman → firefighter, chairman → chairperson → chair)
3. 女性が男性言葉を使うことをどう思うか。もしくは、性別にあった言葉を使わないこと全般に対してどう思うか。
4. 女性はビジネスや政治・学問の世界で弱いもしくは不利な立場にあると思うか。もしあるとすれば、その原因は言葉にあるのか。
5. 『「男を探して」ロシア人になった「川口悠子」』を見て、何を感じるか。

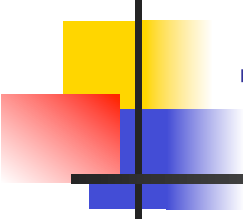


ディスカッション

1. 男性言葉、女性言葉など、特有な形があるか。それはどのような表現か。
2. 男女が区別されている職業名があるか。また、以前は存在したが、今は中性になっている言葉があるか。(fireman → firefighter, chairman → chairperson → chair)
3. 女性が男性言葉を使うことをどう思うか。もしくは、性別にあった言葉を使わないこと全般に対してどう思うか。

バンクーバー五輪冬物語/「男を探して」ロシア人になった「川口悠子」
(『週刊新潮』2010年2月18日)

5. 『「男を探して」ロシア人になった「川口悠子」』を見て、何を感じるか。

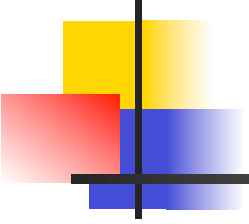


ディスカッション

小さな通信販売会社に、海老名という中年男が入社した。言葉遣いにうるさい海老名は、とりわけ「**ら抜き言葉**」に我慢がならない。敬語を正しく使えず、ことわざも誤って覚えている若い社員たちは、海老名に反発して、大騒動になる。劇作家の永井愛さんが、平成9年に発表した『**ら抜き**の殺意』は、こんな設定だ。10年以上たって、**ら抜き言葉**はますます定着している。(中略)

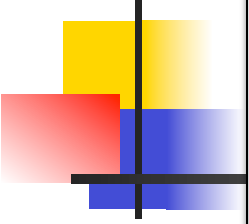
そういえば、小津安二郎監督の映画のなかで、女優たちが使っていた美しい「**女言葉**」を、耳にすることがなくなって久しい。今の若者が聞いたら感想は、「すごっ」だろうか。若い女性に使ってみたらと勧めても、「うるさっ」と煙たがられるのがおちだろう。

『**ら抜き**の殺意』で、社長夫人が、言葉に男女の別があるのは文明国のなかで日本だけ、と講釈する場面がある。たとえば映画『カサブランカ』の字幕では、ボガートの「愛してる**ぜ**」のセリフに、バーグマンが「**ええ、私もよ**」と応じたように訳されているが、実は「**ああ、俺もだぜ**」と言っているのだと。そんな字幕や吹き替えが、現れる日も近いのかもしれない。(産経抄 産経新聞 2011年9月20日)



クリティカル・ディスコース分析 (批判的談話分析)

- 女性語は、男性中心主義のアメリカ社会での弱者の言語である。
- 女性語を分析することで性差別にメスを入れていこうとする。



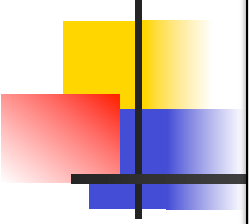
mankind → **humankind**

history → **herstory**

Man's vital needs include food, water, ...

Man's vital needs include food, water, and
access to females.

- 女性語は、男性中心主義のアメリカ社会での弱者の言語である。
- 女性語を分析することで性差別にメスを入れていこうとする。



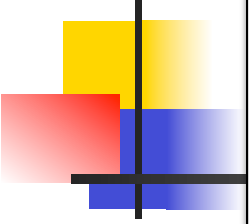
mankind → **humankind**

history → **herstory**

Man's vital needs include food, water, ...

Man's vital needs include food, water, and
access to females.

- 女性語は、男性中心主義のアメリカ社会での弱者の言語である。
- 女性語を分析することで性差別にメスを入れていこうとする。
- 役割固定・分業・役割期待



mankind → **humankind**

history → **herstory**

Man's vital needs include food, water, ...

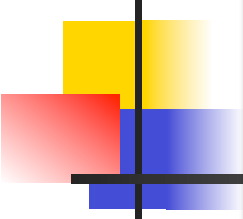
Man's vital needs include food, water, and
access to females.

- 女性語は、男性中心主義のアメリカ社会での弱者の言語である。
- 女性語を分析することで性差別にメスを入れていこうとする。

性別用語 - 言葉 - 性別社会

鈴木おさむ『ザ・私聴率 画面の奥のプロに学べ デキる女性』
(2010: Asahi Shimbun Weekly AERA (2010.2.22) No. 7,
p. 76)

↓ 昔は、決断力がなく、うじうじしている男性
を「**女っぽい**」と言ったり、
↑ 勇気や決断力がある女性を「**男っぽい**」と言
ったりした。



mankind → **humankind**

history → **herstory**

Man's vital needs include food, water, ...

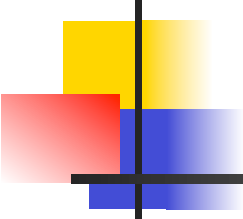
Man's vital needs include food, water, and
access to females.

男泣き

「男は感情を抑えられるが、女は抑えられない」という「暗黙のルール」。泣かないはずの男が激しい感情を抑えられずに泣く、それはよほどのことに違いない。従って「女泣き」という表現はない。（『男と女の日本語辞典 上巻』 佐々木瑞枝 2000）

鈴木おさむ『ザ・私聴率 画面の奥のプロに学べ デキる女性』
(2010: Asahi Shimbun Weekly AERA (2010.2.22) No. 7,
p. 76)

↓ 昔は、決断力がなく、うじうじしている男性
を「**女っぽい**」と言ったり、
↑ 勇気や決断力がある女性を「**男っぽい**」と言
ったりした。



クリティカル・ディスコース分析 (批判的談話分析)

- 女性を描写するのに「男」を使うと、「男まさり」や「男女(おとおんな)」のように勝ち気で品がなく、がさつで強いイメージが作り上げられる。「女だてらに」も同様。
- ↓ 男性を描写するのに男に「女」を使うと、「女男(おんなおとこ)」、「女の腐ったような男」や「女々しい奴」のように男にはあるまじき、弱々しいイメージになる。
- ↑ 「雄々しい(男々しい)」は「(理想的な男性がそうであるように)困難な仕事にも愚痴をこぼさず(ひるむ様子を見せず)たち向かう様子」。
- ↓ 「女々しい」は「(そうであってはいけない男の態度が)意気地がなくて、ひきょうで、まるで女のようなだ」である。

クリティカル・ディスコース分析

「女」は意気地がなく、卑怯で、劣った人種であるとしか解釈できず、ここに男性上位の社会が見て取れる。

- 女性を描写するのに「男」を使うと、「男まさり」や「男女（おとこおんな）」のように勝ち気で品がなく、がさつで強いイメージが作り上げられる。「女だてらに」も同様。
- ↓ 男性を描写するのに男に「女」を使うと、「女男（おんなおとこ）」、「女の腐ったような男」や「女々しい奴」のように男にはあるまじき、弱々しいイメージになる。
- ↑ 「雄々しい（男々しい）」は「（理想的な男性がそうであるように）困難な仕事にも愚痴をこぼさず（ひるむ様子を見せず）たち向かう様子」。
- ↓ 「女々しい」は「（そうであってはいけない男の態度が）意気地がなく、ひきょうで、まるで女のようなだ」である。

クリティカル・ディスコース分析

「女」は意気地がなく、卑怯で、劣った人種であるとししか解釈できず、ここに男性上位の社会が見て取れる。

「主人」という言葉

- ・ 「一家の長」とあるが「妻が他人に対して、自分の夫を指す時にも使われる」ともあるので、その使用は不適切ではない。しかし、この語彙は性による夫婦の役割の**固定観念・概念(ステレオタイプ)**、つまり家制度の名残。
- ・ 妻を「家内」と呼ぶのも、「永久就職(＝結婚)」という表現と同様に役割固定・分業に基づいている。「他者の妻」を意味する「奥さん」と同じように、「家内」は“one inside the home(家の中にいる人＝めったに他人に会ったりしない人)”という意味。
- ・ 朝鮮語「内外」(ネーウエ)＝夫婦(儒教規範)